

和田宿～下諏訪宿間歩き

その1 2015.11.13 (金)

歩くきっかけになったのは長和町在住の友人Sさんの関係で何かと長和町和田地区へ行く機会があり、和田宿を見物したりしました。又今年5月に「中央分水嶺トレイル」を歩いた時に和田峠で休憩しました。その時に2組の「中山道歩き」の人と会話をしました。和田宿から下諏訪宿まで22KMを歩く人達でした。全国の街道歩きの中でもその区間は宿場間の距離が長く、標高が1600Mの和田峠は冬期間は難関の通行を余儀なくされたとの事。そんな訳で私も歩きたいと思っていました。昔の街道歩きは静かなブームもあり、この区間の道路を走っているときにも何回か歩いている人を見ました。又下諏訪町・長和町も独自の観光パンフレットを発行したり、案内板を設置したりしています。11/13天候も良いようなのでSさんのサポートも受けて実行しました。

自宅 5:55～(梓川SAスマートIC～塩尻IC経由) 6:55 諏訪大社下社秋宮P
7:25 Sさんと合流して和田宿まで送ってもらう。和田宿 7:55～9:10 唐沢一里塚
9:20～10:10 接待茶屋跡 10:20～10:55 東餅屋(広原)一里塚 11:00～11:30
和田古峠(昼) 11:55～12:35 西餅屋一里塚碑 12:40～13:15 浪人塚・水戸浪士の墓
13:20～13:35 樋橋茶屋本陣跡 13:40～14:10 木落とし坂 14:15～
14:55 諏訪大社春宮 15:00～15:20 下諏訪宿本陣跡～15:30 諏訪大社秋宮P
15:40～(遊泉ハウス児湯で入浴、塩尻IC～安曇野IC経由で) 17:45 帰宅。

諏訪大社下社秋宮の駐車場に車を置いてSさんの車で和田宿へ向かう。Sさんは車道を歩く所は車で走ってコース案内もしてくれた。和田宿は前に見物してあるので足早に歩く、道端の民家には「屋号」を貼り出したりで宿場町らしさを表していて好感を持った。

和田宿本陣、下諏訪宿目指して

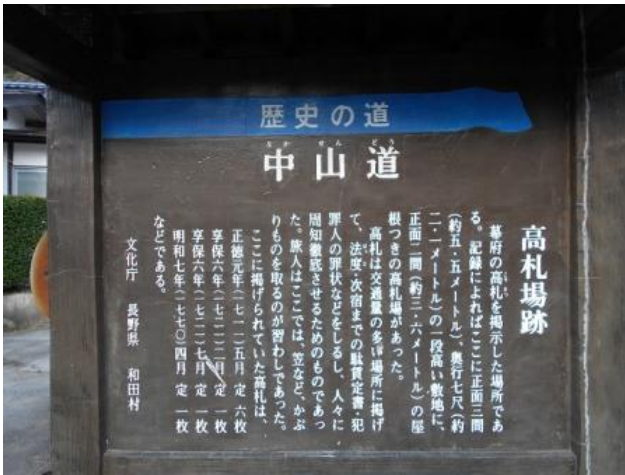
脇本陣



高札場跡



民家にも屋号



下諏訪宿も同じように民家には掲出されていた。長野市の松代地区も城下町らしさを出す為に民家の塀や門が昔風に作られていた。木曾の奈良井・妻籠地区も同じような努力がされている。鍛冶足一里塚跡（江戸日本橋から4 KM毎に一里塚が設置されて、50番目）を見て、嫌な国道歩きで唐沢一里塚（51番目）に着く。5街道の中でも珍しい、対で現存する一里塚との事。

鍛冶足一里塚跡、51番目の

バス停も宿場街らしく



再び国道を歩いて和田峠観音坂（男女倉口）の入り口に着く。此处からは歩行者専用の未舗装の幅広の道で歩き易いし、石畳等もあって古道を歩いている雰囲気が出て嬉しい。すぐに三十三体観音がある。更に登ると一旦国道に出て国史跡「接待茶屋」（永代人馬施工所）跡があり、水が流れていて休憩にはもってこいの場所なので早昼のコッペパンを食べる。県外ナンバーのトラックの運転手がポリタンクに慣れた手つきで水を汲んでいる、続いて地元の常連風の人が何とポリタンクを15個ほど持って来た。銘水のような。私も500MLのペット2本に汲んでこの先の飲料水にする。その先には殉職警察官の慰霊碑があった。石畳もある道を登ると東餅屋（広原）の1里塚がある。江戸から52里目になる。その先には古いキャンプ場とトイレ・洗い場があった。東餅屋には5軒の茶屋があり旅人の休息所になっていた。ビーナスラインを何度か横切って最高所の和田古峠に着く。中山道最高地点で標高1600M、五街道の中でも最高地点で急坂が多く、降雪の際や雨・霧等で旅人は難渋したのだろう。馬頭観世音・賽の河原地蔵等が建立されている。御嶽山も見える。中央分水嶺トレイルを歩いた時に休んだ懐かしい所だ。此处ではハイカー3組に会った、扉峠から下諏訪宿まで歩くと言う単独行もやって来た。この人は古道歩きのベテランのよう

でこの道も2回目だと言っていた。此処までは緩やかな登り坂の連続だったが、ここからは下り一方になる。下諏訪側は足場が悪くなると書かれていたが、私は登山をするせいか全く感じないし、歩き易い道が続く。水飲み場・石小屋跡を通過して西餅屋立場跡を過ぎると日本橋から53番目の西餅屋一里塚に着く。

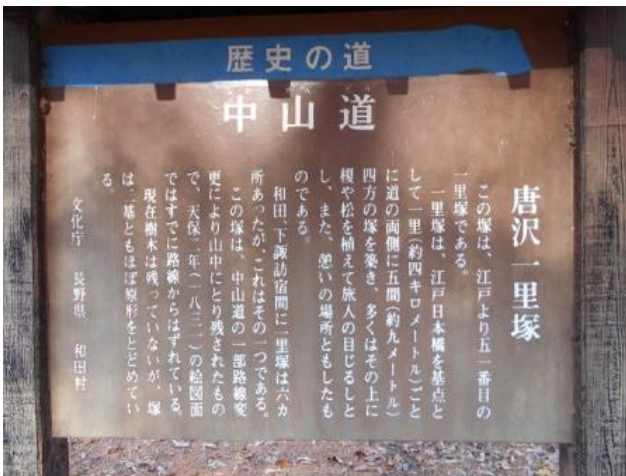
廃業です



国道はゴミが散乱しています



唐沢一里塚.



左右に2つの塚が現存



しばらく餅屋川に沿って歩くがイワナが気になって時々沢を覗く。歩道の無い国道歩きが1.7KM続くようなので上り線の登坂車線側を歩く事にする。和田側の歩道の無い国道歩きでは右側の下り線側を歩いたがスピードが出ていて怖かったし、風圧で帽子が飛ばされたので。今回の歩きで一番嫌だったのは「国道歩き」だった。身の危険を感じたし、ゴミの散乱が多かったので。国道歩きから解放されると「浪人塚」。元治元年（1864年）11/20にこの一帯で、水戸の浪士達千余名と松本・諏訪の連合軍千余人が戦った。この時に討死した浪士（天狗党とも書かれていた）を葬り桜を植え墓碑が建てられた。すれ違いに水戸ナンバーの車が出て行ったが関係者だったか？

峠越えに



三十三体観音

←説明文.



接待茶屋跡



←その説明文.



殉職警官碑.



石畳みの道



黒耀石の産地です、
東餅屋には5軒の茶屋が名物の力餅を



東餅屋



和田古峠



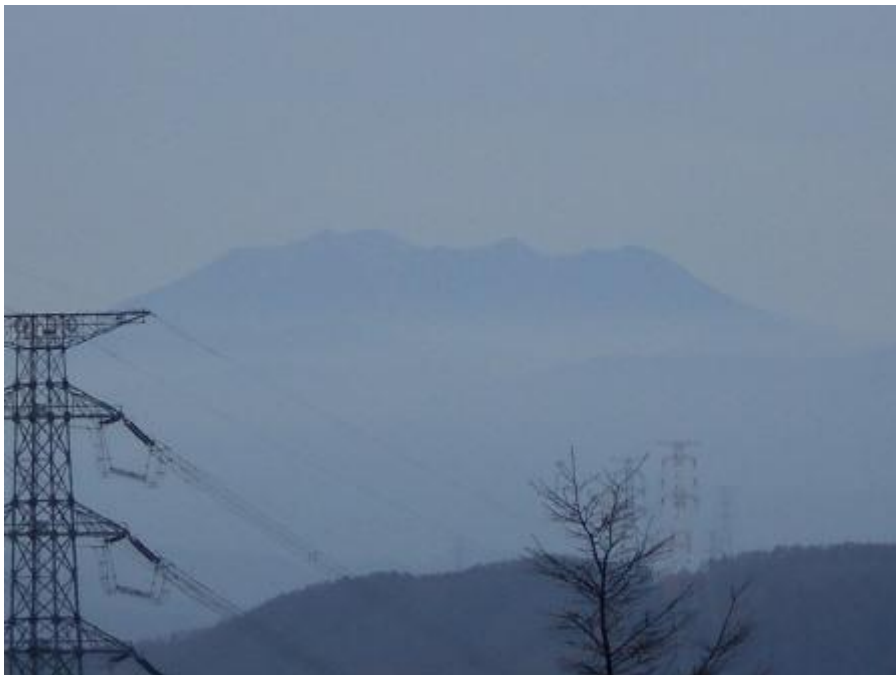
半分歩きました



説明文.



峠で御嶽山



さらに下ると人家も現れて樋橋茶屋本陣跡に着く。その先には樋橋一里塚があった。江戸より 54 里である。その先からは国道歩きとなったが、3Mもある幅広の歩道が設置されているので安心して歩けた。国道から分かれて木落とし坂へ。7年に1度の奇祭「御柱祭」の最大の見せ場として知られる諏訪大社下社の木落としが行われる長さ 100M、斜度 35 度の難所で、砥川の対岸には観覧席が設置されている。此处も観光客が車で立ち寄って行く所だ。毒沢鉱泉の近くには「注連掛」(しめかけ)。御柱に注連掛を張る場所で此处までが「山出し」で約 1 か月後此处から「里曳き」が始まるとの事。諏訪湖も見えて来て人家も多くなって来た。万治の石仏は何度も見ているので省略して、春宮のみ寄って見る。

和田宿～下諏訪宿間歩き その2へ続く